

またこれも例年と共通する傾向であるが、大坂城跡・清洲城下町

遺跡・天神山遺跡など中・近世の城郭・城下町遺跡からの木簡出土

が報告されている。そのなかには大坂の場合のように、木簡に記された人名を他の文献史料によってたどり、その居住地を特定できるようになつたという成果もあり、この時代の研究にとつても木簡が威力を發揮することを示す好例となつた。

さらに清洲城下町遺跡では二〇〇点以上の柿経が出土し、天神山遺跡では二点の塔婆が出ている。これらを木簡に含めるのがよいのかどうかという問題があるが、現在では間口を広くして史料の収集に当たつている。それに伴い呪符や聞香札を含め、木簡の時代も性格も広がつてきているが、まだ中近世史や文化史・宗教史などは研究の手薄な分野として残つてゐる。今後の研究の一層の進展が望まれるところである。

なお八九年あるいはそれ以前に木簡が出土したことがわかつて、いる遺跡のなかで、様々な事情から今回報告を掲載できなかつたものとしては、静岡県瀬名遺跡・山形県月記^{がつき}遺跡・石川県横江莊莊家跡・広島県尾道遺跡などがある。まだこの他にも、木簡が出土しているにもかかわらず、我々が掌握できていない遺跡もあろうかと思われる。本会では、今後ともこのような遺跡についても、できるだけ掲載したいと考えてゐるので、関係機関・関係者ならびに会員・読者諸氏のご協力をお願いする次第である。

(館野和己)

凡例

一、以下の原稿は各木簡出土地の発掘機関・担当者に依頼して、執筆していただいたものであるが、体裁および釈文の記載形式等については編集担当の責任において調整した。

一、原稿の配列はほぼ奈良時代の五畿七道の順序に準じた。
一、釈文の漢字はおおむね現行常用字体に改めたが、「實」「證」「龍」「廣」「盡」「應」等については正字体を使用し、異体字は「井」「卉」「季」「牴」等についてのみ使用した。

一、釈文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す（単位はミリメートル）。欠損している場合の法量は括弧つきで示した。その下の三桁の数字は型式番号を示す。またそれぞれの発掘機関での木簡の通し番号は最下段に示した。

一、釈文に加えた符号は次の通りである（六頁第1図参照）。

「」 木簡の上端ならびに下端が原形をとどめていることを示す。

木簡の上端・下端に切り込みのあることを示す。

抹消した文字であるが、字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。

穿孔のあることを示す。

抹消により判読困難なもの。

欠損文字のうち字数の確認であるもの。

欠損文字のうち字数が推定できるもの。

欠損文字のうち字数の数えられないもの。

前後に文字のつづくことが内容上推定されるが、折

損等により文字が失われているもの。

異筆、追筆。

合点。

木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

校訂に関する注で、原則として釈文の右傍に付し、

本文に置き換えるべき文字を含む場合。

編者が加えた注で疑問の残るもの。

文字に疑問はないが意味の通じ難いもの。

同一木簡と推定されるが、折損等により直接つなが

らず、中間の文字が不明なもの。

組版の関係で一行のものを二行以上に組まなければ

ならなかつた場合、行末・行初につけたもの。

図版に写真の掲載されているもの。

一、地形図は原則として国土地理院発行の五万分の一地形図を使用

し図名を()内に示した。地図中の▼は木簡の出土地点を示す。

一、釈文の最下段に三桁で示した型式番号は、木簡の形態を示し、

つまの一五型式からなる(六頁第2図参照)。

011型式 短冊型。

015型式 短冊型で、側面に孔を穿つたもの。

019型式 一端が方頭で他端は折損・腐蝕で原形が失われたもの。

021型式 小形矩形のもの。

022型式 小形矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいたしたもの。方

032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいたもの。方

033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖

らせたもの。

039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は

折損あるいは腐蝕して不明のもの。

051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

059型式 長方形の材の一端を尖らせたものであるが、他端は折

損あるいは腐蝕して不明のもの。

061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

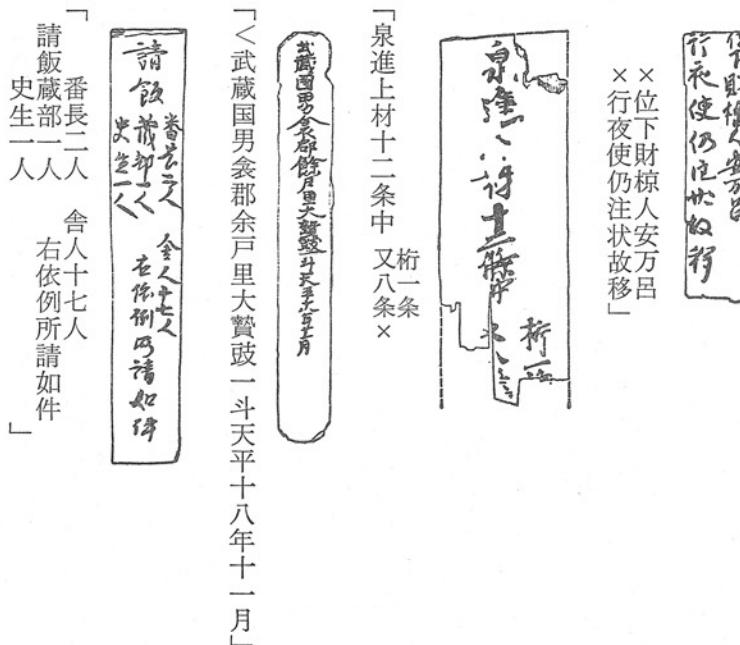
065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

081型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

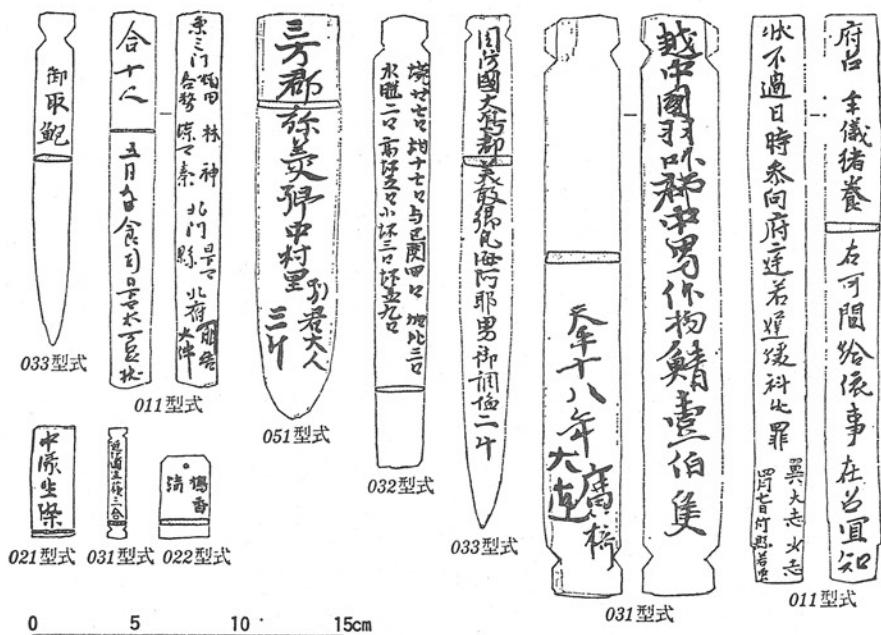
091型式 削屑。

広島・草戸千軒町遺跡出土木簡の型式番号は、広島県草戸千軒

町遺跡調査研究所『草戸千軒—木簡—』を参照されたい。なおその他の中・近世木簡については以上の型式番号に適合しないものが多いので、注記を省略したものもある。



第1図 木簡釈文の表記法



第2図 木簡の形態分類